



コピペから
正しい引用へ

コピペと言われない

レポートの書き方教室

3つのステップ

山口裕之

2014年度大学入門講座

「学術的発想と書き方」

第二部

論文・レポートとは何か？

- 自分の意見を根拠づけて主張する。
 - × 根拠のない思いつき
 - × 単なる感想
- 他者と対話するために必須の能力。
- 高校までの学習とは全く異なるもの。
 - 「似たもの」と混同しないで。

入試の「小論文」との違い

- 小論文
 - 何も調べないでその場で書く。
- 論文・レポート
 - 根拠を調べたうえで書く。

「調べ学習」との違い

- 調べ学習

- 調べてきたことを報告する。
- 「正解」を探してくる。

×「正解は自分で決めればいい」
⇒どうやって決めるかが重要
⇒自分が決めた「正解」を書くように。

- 論文やレポート

- 賛否両論のある話題
- まだ正解の見つかっていない問題

引用とコピーの違い

- コピー

- 引用であることを示さない。

- 引用

- ① 出典を明記する。(出所表示)

- ② 引用箇所をカギかっこでくくって明示する。(明瞭区分性)

- ③ 引用箇所は少しだけ。(主従関係)

「ハイブリッド車の問題点」

Wikipediaの項目「ハイブリッドカー」の丸写し

ハイブリッド自動車は内燃機関およびその補助機一式と電動機および駆動用バッテリーと燃料タンクを1台の車に搭載するため、全般に同程度の排気量のガソリン車と比較して15-20%ほど重量が増加する。

システムの複雑化は欠陥や故障のリスクを高め、メンテナンスのコールの増加など信頼性の低下があり、重量の増加は燃費やブレーキと言った車体、走行性能を低下させる。

- × 出所表示
- × 明瞭区分性
- × 主従関係

こうした問題点から、ハイブリッド車が良いとは言えない。

「自分の言葉に直しなさい」?

ハイブリッド自動車は **エンジンだけでなく、**
モーターや 駆動用バッテリーと燃料タンクを1台の車に搭載するため、全般に同程度の排気量のガソリン車と比較して15-20%ほど重量が増加 **します**

システムの複雑化は **信頼性の低下に繋がります。**
重量の増加は燃費やブレーキと言った車体、
を增大させ **ます。**

こうした問題点から、ハイブリッドが良いとは言えません。

- × 出所表示
- × 明瞭区分性
- × 主従関係

「引用」への第一歩

「ハイブリッド自動車は内燃機関およびその補機一式と電動機および駆動用バッテリーと燃料タンクを1台の車に搭載するため、全般に同程度の排気量のガソリン車と比較して15-20%ほど重量が増加する」

(Wikipedia「ハイブリッドカー」より)

明瞭区分性

出所表記は？

主従関係は？

「出所表記」に示すべき情報

- ウェブページの場合
 - 制作者・ページのタイトル・URL・閲覧日時
- 本の場合
 - 著者・タイトル・出版社・出版年・ページ
- 論文の場合
 - 著者・タイトル・掲載誌名・出版年・ページ

⇒読者が出典を速やかに確認できるように。

「引用」はレポートの小部分

コンディヤックの問題圏

東京大学大学院人文社会系研究科 山口裕之

私の博士論文の冒頭

1.1 はじめに

《著作の概観》

エチエンヌ・ボノ・ド・コンディヤック (1714-1780) *1 は、十八世紀フランスを代表する哲学者であり、「**おそらくは啓蒙思想の最も典型的な哲学者である**」(Sgard,p.3)。「**十八世紀におけるその後の哲学的言語研究は全てコンディヤックの『人間認識起源論』を出発点としている**」(Albury, p.24)と言われ、また後に見るようにその方法論はラヴォワジェによって化学の分野に全面的に導入されるなど、その思想は現在に至る哲学史、科学史に大きな影響を与えている。にもかかわらず、その思想、特に近代科学の拡張、発展に影響を与えた「分析的方法」を巡る問題については、従来の哲学研究において十分に取り上げられてきたとは言いがたい。本論はそうしたコンディヤックの、特に分析的方法に焦点を当てて研究せんとするものである。

まずは導入として、彼の著作を概観しておく*2。

『人間認識起源論』及び『感覚論』の二著作については邦訳も出版されており、既にある程度は知られていると言ってよいだろう。その主題と内容について簡潔に述べるなら、『起源論』は、人間の**もつ精神的諸機能と認識の全てが感覚という唯一の起源から派生してくることを論じるものである**。『感覚論』もまたそれと同一の主題をもち、特にパークリ主義への反論を意図して、触覚による外的対象の認識の成立を論じている。この著作は、五感それぞれが我々に与える認識を考察するために、「**内的な組織構成が我々と同じであるが、その精神はいかなる種類の観念も持たないような立像を想定**」(『感覚論』Dessein de cet ouvrage, p.222)し、そうした立像に感官を一つずつ与えていくという独特の思考実験を遂行する点に特徴がある。

その他の著作として、ベルリン王立アカデミーに提出されたライプニッツ研究である『モナド論』、デカルト、スピノザ、ライプニッツらの「形而上学的体系」を批判し、自らの称揚する「**経験によって保証された諸原理に基づく体系**」を論じた『体系論』、動物を自動機械と同一視するビュフォンに対する批判を意図して書かれた『動物論』、パルマ王国皇太子の家庭教師をした際にその教科書として書かれた『教程』、重農主義に基づく経済理論を示した『通商と政府』、ポーランド政府から依頼された論理学教科書である『論理学』がある。なお『教程』は、その大部分が『起源論』を中心に他の著作における議論の焼き直しによって作られているが、コンディヤックの著作の中で「**十八～十九世紀をとおして最も数多く版を重ねたベストセラーであった**」(古茂田, p.319)。内容としては、『文法』、『書く技術』、『推論の技術』、『思惟の技術』、『古代史研究序説』、『近代史研究序説』、『歴史研究』に分かれている。

また、その死によって未完に終わった著作として、『計算の言語』と『同義語辞典』があり、前者は1798年の全集に、後者は1951年のル・ロワ版全集に初めて収録された。

次に、コンディヤックの古典的解釈者であるル・ロワの議論を参照して、彼の思想の成立の背景などについてまとめておく。ル・ロワの解釈については後に検討するが、その解釈の枠組みは後のマディエニエールフェーブルらの研究においても踏襲されており、コンディヤック解釈の一つの標準となっていると言ってよい。

《コンディヤック思想成立についてのル・ロワの説明》

ル・ロワの説明によると、コンディヤックの思想は、ロックの切り開いた「心理学的領域」に対してニュートン的方法を適用することで成立した。「**人は、『人間認識起源論』において、まず第一にロックに由来する影響を認めるだろう。ロックは、人間精神が高まって行くところの諸概念が全て感覚的経験にその起源を持つことを示そうと欲した。複合観念とは、彼にとって、単純観念の混合にほかならなかった。そして単純観念の方は、感覚あるいは反省に対する直接的な所与なのであった。これはコンディヤックが繰り返したことである**」(Le Roy, p.84)。かくして、ロックの影響のもと、コンディヤックは、注意、比較、記憶など、人間精神の諸機能が第一の機能たる感覚の変様として成立すること、そうした諸機能によって獲得される認識もまた感覚の変様にほかならないことを示そうとするのである。実のところ、この主題は処女作『人間認識起源論』から遺作『計算の言語』に至るまで変わることなく繰り返される。

このようにロックはコンディヤックに決定的な影響を与えたのであるが、一方、「**ロックの影響の背後には、目立たないが同じくらい強い別の影響がある。それはニュートンの影響である**」(ibid, p.85)。ニュートンの影響は、人間知性にかかわる全てのことを唯一の原理によって説明しようとする体系志向として現れる。「**ニュートンは、諸現象を非常に単純な一つの同じ原理によって結び付けることで、諸現象を関係付けることを探求した。天体の運動と物体の落下という二つの事実には共通点が見えないように見えるが、万有引力の法則は、それらの事実を同じ公式によってひとまとめにすることを可能にした。そこで、ニュートンの崇拜者たちの間で、とりわけコンディヤックにおいて、事実によって示唆された唯一の原理のみに訴えて全てを説明しようという関心が生じたのである**」(ibid, pp.85-6)。そして、『人間認識起源論』はこうした関心に答えるものであり、そこにおいて人は、ロックの思想とニュートンの思想とが交差しているのに気づくだろう。すなわち、人間について感覚的経験によって説明し尽くそうとする欲望と、唯一の説明原理のみにしか訴えないという意志である。こうした二つの発想の合流点において、それらの発想が溶け合っただけでなく、知性に関する全てを唯一の原理に還元することができるという考えが生じた瞬間に、コンディヤックの著作が出現したのである。

かくして、ロックの『人間知性論』が「**冗長で、繰り返しが多く、無秩序である**」(『起源論』, intro, p.5)のに対し、コンディヤックはそれをニュートンばりの原理に基づく体系へ

なぜ大部分が「引用」になってしまうのか？

- 情報源を一つしか見ないから。

⇒ポイント: あえて反対意見を探してみる。

⇒「論じるべきこと」を発見する。

– 賛否両論が対立している点＝社会的・学問的に論じるべき点！

– 「自分の関心」で書かないように。

たとえば、原発の是非について、

- 賛成の主張を探してみる。
- 反対の主張を探してみる。
- 両者を比較検討する。
- 検討するときの根拠として「引用」を用いる。
- 自分の主張を打ち出す。

・・・しかし、

ダメな結論の例

- 「人それぞれで決めればよい」
 - あなたが決めた主張を論じてください。
- 「真剣に考えるべきだ」
 - レポートを書く段階で実行しておくべき。
- 「最近の学生は…」
 - 他人事っぽい。
- 「電気に頼らない生活をするべき」
 - 非現実的な結論。
- 「ある程度はやむをえない」
 - 具体的に何をしたらよいのかよく分からない。
- 「結局〇〇思考」
 - 一見「根本的」だが無意味な結論。

大切なことは、反復練習。

- 「何でもうまくいくちょっとした一言」
なんてない。
- 「技術」は、地道な反復練習によってのみ、身に付く。
- レポートの書き方の基礎については、



3つのステップ

山口裕之

コピーと言われない
レポートの書き方教室

コピーから
正しい引用へ



ステップ1. 「コピー」と言われない書き方・ 基礎編

①: 情報源は引用と出典で明示する。

ステップ2. 「コピー」をしようと思わなくな るための方法

②: 複数の情報源を確認する。

③: 反対意見・反対の事例を常に探す。

④: 「論じるべきこと」を見つける。

ステップ3. 「引用」を活用した文章の構成

⑤: 「思う」は禁句。

⑥: 接続詞を入れる。

⑦: 具体的な結論を出す。